

焼き芋と

おさんぽ会



ここ二年間、決行できずにいた「焼き芋とおさんぽ会」が、今年は、抜けるような秋晴れの下、行うことができました。

園長

榎本トミ

私は、初めて体験する行事でした。いつも子どもたちが体験している散歩コースを、年齢別に分かれて親子で歩きます。散歩を終えてわかばに戻って来た時に、焼き上がったお芋をいただくという秋ならではの行事です。

私は、園庭での焼き芋のやり方を理事長(辻村先生)に伝授してもらいながら「火」の番をすることになりました。簡単そうにみえていた落ち葉だけの焼き芋は、なかなか難しいものでした。火で焼き山の表面だけ燃やしたら、お芋は表面だけ高温になり、焦げ付いてしまい、お芋の中までは焼けないということが分かりました。焚火の様に「火」を出して、乾いた落ち葉をメラメラ燃やしていくのではなく、低温で長い時間をかけて焼きあげなければならぬので、燻った状態で「煙」を出しながら、その落ち葉を長い時間をかけてじっくり燻らせていくことで、お芋の中までしっかり焼けて、ホクホクのお芋に仕上げることに繋がるのだということが(大事な秘訣なのだ)分かりました。しかし、理窟が分かっている、実際にやってみると、微妙な「感」(落ち葉をどの位、どの辺りにかけたら燃えないで、燻るのか!など)を掴むまで、なかなか難しいものでした。煙の出ている落ち葉の山と、自分の感覚をフル動員させながら、日本のこうした秋の楽しみ方、落ち葉をお掃除しながら、少ない落ち葉でも燻しながら時間をかけて秋に獲れたお芋を忍ばせて北風の吹き始める秋や初冬の

頃、ホカホカに焼きあげたお芋を近所の人達とフーフーしながらいただき、暖をとる!ホットする!このような場所の風景がずーっと昔からあったのだらうと思いを巡らせているうちに、次々とわかばの親子が、散歩を終えて戻ってきたのでした。

「つかれた」「お芋、焼けたあ?」と言いながら戻ってきた子どもたちは、ホクホクにできた焼き芋を親子共にニコニコ顔で食べてもらえて嬉しくなりました。「こんなに歩けるんだ!と驚きました!」と直接感想を伝えてくれたお父さんお母さんもしました。たくさん自然、舞岡の発見もあったことでしょう。普段見えないお子さんの発見もあったことでしょう。お父さん、お母さん、そして子どもたちの満足そうな笑顔がなによりも今回の「焼き芋とお散歩会」の良さを語ってくれていました。わかばで今後も続けていきたい行事にしたいと思います。もう十二月になって、園庭の「イチヨウの樹」が「黄金のクリスマスツリー」になりました。どのクラスからも見えて、どのお部屋も明るくなったような気がします。これから毎日、園庭には、黄色く染めるじゅうたんのようになっていく、子どもたちも花束にしたり、おままごと、おかあさんへのお土産になっていきます。一つひとつの行事をじっくり味わいながら過ごしていってほしいと思います。年末までのたくさんのご協力ありがとうございました。

どうぞ、よいお年をお迎えください。

